建築士やまなし

No.75

— ARCHITECTURE YAMANASHI —

Photo：中村　絵　①

Photo：高柳　健　⑥

■平成30年度
山梨県建築文化賞受賞作品

①清里のグラスハウス
〔住宅〕(建築文化賞)
②WATER GLASS VILLA
〔住宅〕(建築文化賞)
③株式会社テージーケー
韮崎工場/PROLK
〔一般〕(建築文化奨励賞)
④富士北麓公園 屋内練習走路
富士ウッドストレート
〔公共〕(建築文化奨励賞)
⑤八ヶ岳の住宅・レストラン
〔良好なまちなみ景観〕
(建築文化奨励賞)
⑥アメリカヤ
〔良好なまちなみ景観〕
(建築文化奨励賞)

Photo：小川 重雄　②

Photo：宮本 真治　③

Photo：エビハラ カズミ／GlassEye Inc.　④

Photo：福田 世志弥　⑤

●目次●

年頭のごあいさつ　一般社団法人 山梨県建築士会　会長　雨宮健一 …… 2
日本建築士会連合会長表彰を受けて　市川支部 木村　亮・甲府支部 市原文子・韮崎支部 名取あき子…３・４
「建築士会全国大会　さいたま大会」に参加して　甲府支部　髙相 正樹 …… 4
「建築士会全国大会　さいたま大会」に参加して　女性部会　守屋恵子 …… 5
第２回山梨県建築士の集いへの誘い　山梨県建築士の集い実行委員会　長坂　治…… 5
青年部会の活動報告　青年部会　副部長　小林弘幸 …… 6
女性部会の活動報告　女性部会　齋藤亜紀子 …… 6
女性部会30周年記念に参加して　女性部会　田邉佳子…… 7
第53回 スポーツ大会に寄せて　中巨摩支部長　内藤清仁 …… 7
建物探訪　『ブラ散歩 @甲斐善光寺』　山梨県建築士会編集委員会　中澤 幸子 …… ８・９
県からのお知らせ　平成30年度 山梨県建築文化賞　山梨県建築文化賞推進協議会 …… 10
事務局よりお知らせ　会員の動静 …… 11
編集後記 …… 12

年頭のごあいさつ

一般社団法人　山梨県建築士会
会長　雨宮健一

新年あけましておめでとうございます。皆様に於かれましては、輝かしい歳の幕開けをお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、私事で大変恐縮ですが、昨年は後藤知事より県政功績賞を授与され、ねぎらいと激励のお言葉を頂き、大変名誉あることと光栄に思っています。この栄誉こそ会員の皆様や諸先輩方のご指導・ご鞭撻があって初めて賜ったものと、改めまして皆様に感謝申し上げます。今後益々精進を重ね、県政に対し尽力したいと考えています。しかし、私達建築士の置かれている環境は厳しく、只々受賞に浮かれてばかりではいられません。

近年、建築士の高齢化により、リタイアや建築士事務所の廃業が増加する傾向にあり、一方将来を担う世代の建築士の確保が懸念されるなかで、適切に建築設計・工事監理を行う能力や技術力を維持・継承するため、若手建築士の確保・育成が急務となっています。その上、若手建築士の資格取得をする受験者が減少傾向にあるのも事実です。要因として、受験要件や資格獲得の見通しの不透明さ等が考えられます。修正するには、建築士資格制度の改善を図る必要があるのではと思います。また建築士の能力が必要な業務も増加しているので、建築士が活躍できる環境整備を行うことも必要ではないでしょうか。そこで建築設計三会は、建築士資格制度の改善に向けて共同検討を行い、以下のような現状を鑑み、国に対し提案をまとめたそうです。

・建築士の高齢化は、建築士事務所に属している一級建築士14万人のうち、50歳以上が、6割以上を占めている。加えて一級の学科試験の受験者数が、10年間で4割も減少している。原因として、大学を卒業しても実務経験が課されているため直ちに受験できない事や、就職をしてからの業務が忙しく受験勉強が充分に出来ない事が考えられます。

・10年前に受験要件である実務経験の範囲が狭められ、建築教育、研究・開発、建築物の検査、官公庁等における建築行政等が、実務経験に認められなくなり、受験に必要な知識、経験を有しているにもかかわらず、建築士試験を受験できない者が多くいます。

・設計製図試験は、製図板、T定規を使用し、鉛筆書きによる試験ですが、大学ではCADを用いた製図教育が行われており、設計業務もCADが主流となっているなど、試験方法が実態と合っていません。また、受験に特化した特殊な勉強を行わなければ建築士試験に合格することが難しいとの認識が、一般化しつつあります。

・建築士が関与することが望ましい業務の明確化。例えば建築物の安全上重要な、耐震や防火・避難に影響する改修であっても、大規模の修繕又は大規模の模様替えにあたらなければ、建築士が設計等にあたる必要はないなどです。

以上のような実態を把握するとともに、定期講習等の内容及び方法等の見直しを検討し、このような現状を一刻も早く解決することを期待します。

最後になりましたが、建築士会の皆様にとってより良い一年でありますように、更なる皆様のご支援・ご協力を御願い申し上げ年頭の御挨拶とさせて頂きます。

日本建築士会連合会長表彰を受けて

市川支部
木　村　　亮

本年度の建築士会全国大会において表彰を頂きました。天孫降臨の地高千穂峰を眺めながら高校時代を過ごし、東京での生活を経て、山梨に移住、同時に建築士会に入会し43年になります。会社人間だった私が建築士会に入って学んだ事は、皆が自分の仕事を離れ、社会性の高いテーマを掲げ、意見を持ち寄り議論し、実践的な行動に移しているボランティアでした。それに対する尊敬の念がのちに東日本大震災の折、私の背中を押してくれた様な気がします。

震災後の4月初旬、旧知の会社社長の依頼で、県産の杉・桧を使って震災地の仮設住宅建設の手伝いをする事になりました。場所は福島県相馬市、規模は90棟、世帯数約500世帯、延べ坪4700坪、工期は5月6日から7月初旬の2ヶ月間で全棟完成と云う厳しい条件でした。早速、県内の森林組合に協力を求めしましたが数量と期間の短さに対応出来ないと云うのが全事業所の回答でした。そこで地元の南部と峡南森林組合に直談判に出向き、震災復興への支援や県産材のPR等にも触れ又、両組合の連携が取り易い環境を作る事を約束し、協力を取り付けました。プレカットも県内では対応が厳しく長野県の事業所に頼み、そこから埼玉、群馬、新潟、山梨の同業者の協力を取り付けてもらいました。搬送も青梅市の運送会社が一手に引き受けてくれた事で現地からの注文受入れ態勢が整いました。木材の最終納入量は構造材、葉柄財を含め合計115500丁、材積約1500㎥でした。

仕事に掛かる前に地元の建設会社と打合せの為福島の現地を訪れました。打合せ終了後、約1時間かけて仙台駅迄車で送って貰いました。まだ所々陥没したままの幹線道路を走りながら眺めた景色は、数キロ先の海岸まで建物の残骸や倒木に埋め尽され荒涼とし暗たんたる気持にさせられました。私はこの時、今度の仕事は90棟目が現地に届くまで、全力で突っ走しろうと考えていました。現地にも4回行きました。全てが手弁当でしたが現地から最後の連絡が来た時、安堵と達成感と開放感で力が抜ける思いでした。雨宮会長はじめ士会の発展にご尽力されている会員諸氏に改めてお礼と感謝を申し上げます。

日本建築士会連合会長表彰を授与されて

甲府支部
市　原　文　子

第61回建築士会全国大会において会長はじめ諸先輩のご推挙を頂き、日本建築士会連合会長表彰の栄誉を受けられたことを心より感謝申し上げます。

私が山梨県建築士会に入会させていただいたのは、昭和58年に千葉から甲府に引っ越してきて2～3年たった頃のように記憶しております。当時、建築の仕事には就いておりませんでしたが、でも建築に関する情報には接していたいという思いからでした。そして平成元年4月女性部が創設されました。創設メンバーに加えて頂き、以来、私は女性部の皆さんと共に建築士会と関わって来ました。

○毎年各県で行われる全国大会には出来る限り参加させて頂きました。そういう機会に女性部の皆さんと、より親しくなった様に思います。

○関東甲信越建築士会ブロック会女性建築士協議会には、年2回出席し各都県の女性建築士会の方達と親しくして頂き、また勉強もさせて頂きました。

○女性部があったからこそ、めぐり会えた生涯の友もできました。いまでも近しくお付き合い頂いている大切な方達です。

このような賞が頂けたのは、私と一緒に活動して下さった女性部の皆さんや、ずっと見守ってくれた家族の協力があったからであるとあらためて思います。建築士会を通じて多くの皆様との交流や活動経験は、私の掛けがえのない思い出です。

改めて建築士会に感謝申し上げ、本会の益々のご発展をお祈りしております。

日本建築士会連合会長表彰を受けて

韮崎支部
名　取　あき子

本年度の全国大会で編集委員と韮崎支部の役職を永く務めたことにより連合会長表彰を授賞していただきました。

私と建築士会との関りは、女性部の発足がきっかけでした。それまでは、講習会への参加程度でしたが、発足後は女性会員の増強や士会の行事への協力などがあり、深くなっていきました。

第二代の女性部長になってからは、県の審議委員などをさせていただきました。それから、編集委員になり「アーキテクチャー　やまなし」に本年まで関わらせていただいています。また、「近代化遺産」の調査委員になり峡北地域の担当もしました。この調査では、各市町村の教育委員会を訪ね該当する物件があるか、また古そうな家を尋ね、お話を伺う中での発見もあったり多くの方との出会いがあり、それが今に至る宝となっています。調査した建物の中には、登録文化財になったもの、また壊されてしまったものもありましたので良い時期に貴重な経験をすることが出来ました。

山梨県建築士会の50周年記念誌では、先輩諸氏の会への関りを一覧表にすることにより、改めて多くの方が協力することで存続していることに気づかされました。その一員に加われていたことをうれしく思いました。

様々な方の仕事をお手伝いするなかでは、県立美術館の耐震補強工事においてのエピソード・新設倉庫でのハプニング、また古民家での再発見や伝統工法（宮大工の再生の技・左官の竹と縄の妙技ほか）の素晴らしさを改めて知ることが出来ました。

今回の表彰では、私を推薦してくださった雨宮会長並びに事務局の皆様、また会場まで同行してくれた主人、そして会場で応援してくださった女性部の皆様に感謝してお礼の筆をおきます。

「建築士会全国大会　さいたま大会」に参加して

甲府支部　髙　相　正　樹

建築士会の大会は、多くの青年建築士の建築に対する信念や情熱を肌で感じられる貴重な場であると感じ、数年前から関東甲信越ブロック大会に毎回参加している。全国大会は初めてだったが、青年部からの誘いもあり大会前日の「全国建築士フォーラム」から参加するために会場の大宮ソニックホールに向かった。

フォーラムは「僕らが考える明日、10年後の建築士」をテーマに、50チームを編成してスマホを活用しながらアクティブラーニング型のワークショップを行った。百数十人の多様な意見が全国各地の方言で飛び交い、入力されたデータがモニターに映し出される様子を10年前には想像できなかったが、日頃からどんな意識で何に取り組んでいるか、“志が試されるフォーラム”であった。

翌日は本大会の「地域実践活動発表会」を聴講した。子どもたちを対象に楽しみながら建築の魅力を伝える地道な活動のプレゼンを聴くと、「自分なら何ができるだろうか？」と自問しながら大いに刺激を受けた。

懇親会の後、宿に至る道すがらの歓楽街は千鳥足で歩く我々を見事に足止めにした。なかなか宿に到達できないもどかしさとうれしさに、これも“志が試されるフォーラム”の一環かと疑いつつ夜が更けていった…。

「建築士会全国大会　さいたま大会」に参加して

女性部会　守　屋　恵　子

今回の大会では、女性委員会による『魅力ある和の空間ガイドブックWEB版制作記念トークイベント』を聴講しました。女性委員会制作のガイドブックには、全国の魅力的な和の空間が掲載されており、建築関係者だけではなく、一般の方にも和のデザインを知ってもらうのにも活用出来そうです。山梨からも、安藤家住宅、根津記念館、御師外川家住宅が紹介されていました。トークイベントでは、岡山県他3県の代表が各々の和の空間を紹介し、魅力についてトークセッションが行われました。伝統的な和のデザインを現代において生かし、取り入れて継承していく事で住空間を豊かにしていくこと、また、そうしたデザインに込められた意味や、思いを深く理解することも重要であると感じました。すべて取り入れるのは難しいですが、部分的にでも取り入れる試みを忘れないでいたいと思いました。

午後は川越へ移動し、ガイドブックにもある旧山崎邸別邸へ向かいました。数寄屋造りと鮮やかなステンドグラスなどアールヌーボーの香りを漂わせる、和と洋が融合された建築物でしたが、縁側からの庭の眺めや、細部の意匠は懐かしさを感じられ、心落ち着く時を過ごすことができました。また、毎回感じる事ですが、女性部会での見学では他の方の意見や感想も伺えてとても勉強になり、充実した時間となりました。

『魅力ある和の空間ガイドブックWEB版』
http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/joysei-iinkai/guidebook.html

第2回山梨県建築士の集いへの誘い

山梨県建築士の集い実行委員長　長　坂　　治

青年部会では「山梨県建築士の集い」を実行委員会として企画しています。山梨県建築士の集いでは、

1. 地域実践活動を発表する場
2. 共通のテーマで関係することを学ぶ場
3. それらを元に意見交換できたり懇親をはかれる場

これらの3つの要素で、「年に1度の山梨の建築に関する人々には欠かすことの出来ない場づくり」を目指しています。

平成31年2月23日に第2回山梨県建築士の集いを開催します。万障繰り合わせてのご参加お待ちしています。詳細はお問い合わせ、又はチラシ、ホームページの情報をご確認お願いいたします。
https://seinen.ykenchikushi.org/yamanashi

実行委員会では、青年部会の枠を越え、多様な方の企画への参加を募集しています。その準備を協働することで、様々な経験、多彩な人材との交流を経て、その後の様々なコラボレーションなどが実現し、よりよい山梨の建築環境につなげることを目指しています。

昨年の四月に第1回を開催したところ、多くの反響をいただきました。第2回目は、女性部会や行政の建築士の方にも、関わっていただけている状況があります。今年は甲府支部で会場設定及び運営を担ってくれています。建築士やまなしをご覧のみなさまも、どこか一部でも担っていただき、将来の山梨の建築をよりよい物にするために連携することが出来ればと思います。お気軽にお問い合わせをいただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

青年部会の活動報告

青年部会　副部長　**小　林　弘　幸**

夏休みや秋の行楽シーズンに県内各地で、青年部会では今年度も各支部や他団体と協力し、様々なワークショップや勉強会を開催いたしました。

一宮、櫛形、県民の日小瀬会場では「折り紙建築」、御殿場では「新聞紙ドーム作り」を開催し、子どもたちに、ものづくりの楽しさの体験を通じ、建築の仕事に興味を持ってもらい、将来建築士を目指したくなる、きっかけづくりを目指しました。

一方、10月開催のつる産業まつりでは「模擬上棟式」を行い、一般の方々の目の前で実際に小屋組みを組立てて、筋交いの有無による建物の揺れの違いを体験してもらい、建物の耐震性に対する意識の向上に取り組みました。

会員向けの勉強会としては、「ウォールスタットという木造住宅倒壊解析ソフトの勉強会」を年間通して複数回開催しました。

来年度以降もこうした活動を行っていく予定です。青年部会員だけでなく、建築士会員の皆様に是非ご参加、ご協力を賜りたいと思いますのでよろしくお願いします。

女性部会の活動報告

「2018夏休みモノづくりワークショップ

女性部会　**齋　藤　亜紀子**

夏休みを児童館や学童で過ごす小学生を対象に、「建築士のできることをテーマとし、モノづくりの楽しさを伝えるワークショップを中巨摩支部・石和支部・青年部・女性部のみなさんと開催しています。新聞ドーム、ストローハウスに続き今年は折り紙建築にチャレンジ、低学年のこどもたちには、カッターで切り込みを入れたものに個々の好みで色塗りをし、立体にする作業を。中・高学年のこどもたちは、カッターの使い方から指導、全工程を自分たちの力で完成させてもらいました。お声かけいただく先生より、こどもたちの集中力と想像力・創作力を引き出し、いつも見れない表情が見られると絶賛いただいています。キラキラしたまっすぐな目線で真剣に取り組む姿に、スタッフも元気や勇気をもらい、励みとなっています。毎年、ご協力をいただくみなさまに感謝いたします。

女性部会30周年記念に参加して

女性部会　田　邉　佳　子

私たち女性部会は平成元年に設立し、今年度30周年を迎えることができました。発足当初は16名の部員からスタートしたと聞いていますが、今では59名の方が所属する情報交換の場となり様々な場所で活動しています。

私が女性部会に参加するきっかけをつくってくれたのが、すでに活動していた先輩の一言でした。「今度、女性部会で構造計算の勉強会があるから一緒に参加してみない」初めはとても緊張しましたが、就職したばかりで未熟な私に先輩方は丁寧に教えてくれました。学校を卒業後も教えてもらえる環境、学べる時間はとても充実していました。そんな懐かしいことも思い出しながら、皆さんに会えることを楽しみに30周年の記念企画に出席しました。

去る10月6日に記念企画として映画『人生フルーツ』の上映会が行われ、建築士会の会員の皆さまや一般の方、ご夫婦、お子様連れの方など80名近い方々の参加をいただきました。

映画は愛知県のニュータウンの一角にある赤い屋根の小さな家。雑木林に囲まれ自給自足に近い生活を送る建築家の津端修一さん（90歳）と英子さん（87歳）ご夫婦の日常を追ったドキュメンタリーです。修一さんが設計した平屋住宅は50年の月日を経て自然の中に溶け込み、お庭にはたくさんの野菜と季節の果実が実ります。二人で会話をしながら畑仕事をしている姿は微笑ましく、収穫した野菜や果物はすべてお料理上手な英子さんの手でごちそうに変わっていました。時間の流れがゆっくりと感じ、見ているだけで優しい気持ちになっていきます。食事を終えた修一さんが「美味しかった」と伝える場面では、お互いを思いやっている感じが伝わってきます。何気ない一言ですが、英子さんにとっては一番嬉しい言葉。夫婦であっても言葉で伝えることって大切なんですね。

映画終了後には会場にあるパイプオルガン演奏を聞きました。生演奏を聞くのは久しぶりでしたが、ホール内の木の質感とパイプオルガンの音色が一つになって体の中にすうっと入ってくるような、ゆったりとした心地よいひと時でした。

これからも建築という好きな仕事に携わりながら、心が豊かになるような時間をつくっていきたいと改めて思う１日でした。

第53回 スポーツ大会に寄せて

中巨摩支部長　内　藤　清　仁

去る11月17日（土）建築士会スポーツ大会を中巨摩支部の担当で、南アルプス市・若草グラウンドで開催しました。

当日までの天気予報は、雨マークで、天気が心配されましたが、当日は晴天で、汗ばむくらいの暑さとなり、無事スポーツ大会を終えることが出来ました。

開会式では、建築士会雨宮会長の挨拶に続き、山梨県建築住宅課の渡井課長様、南アルプス市副市長の手塚様にご祝辞をいただきました。お二人に始球式を行っていただき、競技がスタートしました。

グラウンドと雨天時200名が入れる施設が併設する施設がなかなかなく、最終的には前回と同じ会場となりました。芝生の会場より、ホールインワンがたくさん出るかと思いましたが、グラウンドコンディションが悪く、皆さん苦労していたようで今回の反省点でもあります。

優勝は甲府北西チーム、準優勝は市川支部、３位が北富士支部でした。

商品も中巨摩支部の中で検討し、地酒や最近多く作られているシャインマスカットの詰め合わせ等ご当地のものを選ばさせていただきました。

開催に当たり、中巨摩支部の皆様、身延支部、韮崎支部の皆様にもご協力をいただきありがとうございました。

あっという間の１日でしたが、建築士会の各支部の皆様には１年に一度のスポーツ大会で、より一層親睦を深めていただいたかと思います。

最後に皆様方のご活躍とご健勝を祈念すると共に、建築士会の益々の発展をお祈りいたします。

ブラ散歩＠甲斐善光寺

「門前町はなぜ栄えなかったのか」

山梨県建築士会編集委員会

ブラ散歩＠。前回の甲府市街まち歩きに続き第2弾、いざ何処へ。興味津々な意見が出る中、「門前町」の響きにくすぐられ甲斐善光寺に決定！

甲斐善光寺は川中島合戦の折、信濃善光寺の焼失を恐れ、永禄元年（1558年）武田信玄によって長野より山梨郡板垣郷（現甲府市善光寺）に創建された浄土宗のお寺である。正式名称は「定額山浄智院善光寺（じょうがくざんじょうちいんぜんこうじ）」で、通称「甲斐善光寺・甲州善光寺・甲府善光寺」などと呼ばれている。

昨年の11月下旬、甲斐善光寺周辺のまち歩きを実施。まずは観光気分で撞木造（しゅもくづくり）の金堂を拝観する。金堂中陣の巨大な龍が描かれている天井の下で手をたたき、日本一の規模を持つと言われる「鳴き龍」の声を聴く。それから金堂内にある「お戒壇廻り」を体感する。「心」の字をかたどる闇の中を手探りで歩き、鍵に触れることによりご本尊様とご縁を結ぶことが出来る。全く光のない闇の空間を歩く不安な心持ちの中、鍵に触れた瞬間フッと救われたような感覚を懐く。皆さんも真っ暗な中で自分の「心の声」を聞いてみては如何でしょうか。意外な自分の発見になるかもしれません。続いて、重要文化財指定の木造阿弥陀三尊像が展示されている宝物館を見学し、重層建築の山門を後にして参道に出る。

参道周辺の門前町には、今でも武田信玄時代の地割が色濃く残っているそうだ。そこで私達も参道に面する屋敷地割を歩幅で測るなど、まち歩きを始めると敷地がほぼ同じような寸法で並んでおり、表間口が狭く奥行きの深い短冊型地割だったことが窺われる。

他に何か歴史の痕跡がないかと物色していると、「お〜い、みんなで何をしているんだ」と、着物をリメイクしたはっぴ姿の清水さんの声。以前仕事でお世話になった方である。ブラ散歩＠の説明をしたところ、先祖代々善光寺と深い関わりがあり、また多方面に造詣が深い清水さんから「コーヒーでも飲んで行けよ、少しは力になれるかも知れないよ」とのお言葉に、私達は遠慮なくお邪魔しご教授頂くことにする。しかしご趣味の絵の話から始まり、中々本題に辿り着かない（笑）。奥様がコーヒーを出して下さった辺りからようやく甲斐善光寺についての話題となる。

甲州街道から分岐する参道（大門通）は武田信玄のもと敷設されたもので、道路幅は現在も当時そのままであり、かつては両脇に石積みの水路があったそうである。車社会の世相を考えると、暗渠として整備することは理解出来なくもないが、歴史の面影を読み取れない現状は残念だなぁ〜と思う。

大正6年（1917年）の御開帳の際には、中央線に臨時の停車場ができ大勢の参詣客で賑わったり、境内にある吒枳尼眞天（豊川稲荷で祀られている神様と同じ、インドの女神を起源とするところの夜叉ともされる神様）への参拝客で、参道が非常に混雑した時期もあったそうだ。清水さんからのご教授後、境内に戻り吒枳尼眞天にお参りをする。

年間多数の観光客が訪れる信濃善光寺の門前町は今も賑わいを保っているが、甲斐善光寺の門前町はなぜ栄えなかったのか。

住宅地開発や道路整備により、往時の門前町の雰囲気を偲ぶことは難しくなっているが、武田信玄によって建設された時代、甲斐善光寺の門前には191軒もの町屋敷が確認され、当初からすでに大規模な町が形成されていたようだ。

当時の権力者は、善光寺信仰を権力の中に取り込み、善光寺町の経済力なども掌握しようとしたのだろうが、善光寺のご本尊様が動くと僧侶や職人・商人までが動かざるをえず、経済の中心が変わってしまったのか。甲斐善光寺の門前町も経済的な中心地としての役割を帯びた時代はあったが、ご本尊様の移動により衰退して行ったということだろうか。

ちなみに、鎌倉時代になると、善光寺や新善光寺と名付けられたお寺が全国各地に120箇寺も建てられ、善光寺信仰に関する寺院は500箇寺以上もあるそうだ。

今年は甲府開府500年ですが、もし信玄公が善光寺建立と一体化した大規模都市移転を描いていたならば、善光寺門前町が甲府の中心になっていたのかも知れない。

諸説ありますが、皆さんも一度甲斐善光寺を訪れて悠久の時間に思いを馳せると、その歴史秘話を発見することができるかも知れませんね。

参考文献：「善光寺町屋敷帳」 県立図書館蔵
「中世末から近世初頭の善光寺門前町」
笹本正治
「長野遺跡群　善光寺門前町跡（4）」
長野市教育委員会

お咳婆さんの石（願かけをし咳が治ったらあめを奉納）

吒枳尼眞天（開運招福）

中澤　幸子

県からのお知らせ

山梨県県土整備部建築住宅課

http://www.pref.yamanashi.jp/kenchikujutaku/index.html

ー平成 30年度 山梨県建築文化賞ー　　山梨県建築文化賞推進協議会

「清里のグラスハウス」が建築文化賞に選ばれました

本年度の山梨県建築文化賞への応募（住宅建築13点、一般建築物等15点、公共建築物等16点、計44点）の中から、建築文化賞には「清里のグラスハウス」が、また建築文化奨励賞には５点が選出されました。

昨年11月22日に県立図書館において表彰式が行われ、吉原副知事から受賞作品の建築主、設計者、施工者に表彰状と記念品が贈られました。

これまでの受賞作品も含め、建築住宅課のホームページに掲載されていますので、是非ご覧下さい。建築士会ホームページからもアクセスできます。

今後とも、本事業の推進に建築士皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

【平成30年度　山梨県建築文化賞等表彰建築物一覧表】

（敬称略）

賞の名称	部　門	建築物の名称	所在地	建築物の概要		建築主	設計者	施工者
				用途	構造・規模			
建築文化賞	住宅建築	清里のグラスハウス	北杜市	住宅（別荘）	RC造一部木造 平屋建 249.98㎡	中村　創一郎	末光弘和＋末光陽子/SUEP.	㈱山口工務店
建築文化奨励賞	住宅建築	WATER GLASS VILLA	鳴沢村	住宅（別荘）	RC造一部S造 2階建 448.87㎡	個人住宅のため非公表	Mアーキテクツ㈱	国際建設㈱
	一般建築物等	株式会社テージーケー韮崎工場/PROLK	韮崎市	工場	S造 4階建 9,373.95㎡	㈱テージーケーホールディングス	大成建設㈱一級建築士事務所	大成建設㈱
	公共建築物等	富士北麓公園屋内練習走路富士ウッドストレート	富士吉田市	運動施設	木造（CLT工法）平屋建1,408.93㎡	山梨県	㈱三宅建築設計事務所	富士急建設・川上建設ＪＶ㈲佐藤電気商会
	良好なまちなみ景観を形成している建築物等	八ヶ岳の住宅・レストラン	北杜市	住宅飲食店	木造一部S造 2階建・86.48㎡（住宅）平屋建・55.53㎡（レストラン）	江﨑　新太郎	福田世志弥一級建築士事務所	㈱新津組
	良好なまちなみ景観を形成している建築物等	アメリカヤ	韮崎市	飲食店物販店舗事務所	RC造 5階建 380.51㎡	㈱アトリエいろは一級建築士事務所	㈱アトリエいろは一級建築士事務所	㈱アトリエいろは一級建築士事務所

【山梨県建築文化賞の応募・受賞件数（第1回～第29回）】

住宅建築の部門			一般建築物等の部門			公共建築物等の部門			良好なまちなみ景観を形成している建築物等の部門				計			
文化賞	奨励賞	応募数	文化賞	奨励賞	応募数	文化賞	奨励賞	応募数	文化賞	奨励賞	部門別受賞数	応募数	文化賞	奨励賞	特別賞	応募数
10	34	887	17	32	849	18	29	718	6	38	住宅14 一般27 公共 3	16	51	133	1	2,470
44			49			47			44				185			

※・ 第1回、第２回は、一般建築物等、公共建築物等、良好なまちなみ景観を形成している建築物等の３部門で募集。（住宅建築は一般建築物等に含まれた）

・ 第３回からは住宅建築、一般建築物等、公共建築物等の3部門で募集。良好なまちなみ景観を形成している建築物等については３部門から賞の主旨にかなうものを審査委員会の審査により選出。

・ 第17回からは、国、県の建築物についても表彰対象となる。

※　山梨県建築文化賞推進協議会（構成団体）
（一社）山梨県建設業協会、（一社）山梨県建築士会、（一社）山梨県建築設計協会、（一社）山梨県建築士事務所協会、（公社）山梨県建設技術センター、山梨県